

9月2日のウクライナ情報

安齋育郎

●アルチョモフスク 最前線の街からの報告(2023年8月30日)

今年5月20日解放された露ドネツク人民共和国のアルチョモフスク周辺では、ウクライナ軍による攻勢を防ぐためにロシア軍部隊が防衛任務についている。スプートニク特派員が最前線の街からレポートする。

現在、アルチョモフスク市は完全にロシア軍の統制下にあるが、郊外ではウクライナ軍との睨み合いが続いている。空挺兵の1人は、ロシア軍はより有利な地点に陣地を置いているため、ウクライナ軍が攻めるのは困難だと語る。



https://videon.img.ria.ru/Out/Flv/20230830/2023_08_30_videoartemovsk_mt_0jtnne.3eb.mp4

●まとまらないウクライナ安全保証交渉 西側諸国間の合意は2024年以降＝マスコミ(2023年8月30日)

西側諸国は、ウクライナのための安全保証について、来年2024年よりも前に合意達成はできない。ウォールストリートジャーナルが消息筋からの情報として報じている。

ウォールストリートジャーナルによれば、[安全保証に関する交渉](#)をウクライナと行っているのは今のところ米国と英国で、米国当局は近いうちにウクライナ側と2回目の会合が行われるものと期待している。私は数週間以内にウクライナのための安全保障の議論に加わる予定となっている。「欧州当局は、計画の準備には数カ月かかると警告している。また一部の二国間協定に関しては2024年まで合意に至らないだろうと見られている。今のところ、ウクライナに対し、どういった義務を負うべきかについての統一した見解さえ得られていない」ウォールストリートジャーナルはこう書いている。

ウォールストリートジャーナルは、ビリニユスでのNATOサミットでG7諸国がウクライナを支援する宣言を採択した事実を示す一方で、宣言にある、ウクライナの安全保障分野における西側諸国の義務についての項目には、ウクライナのNATO加盟についての約束と同様、その実現化の具体的な期日は記されていないことに注意を喚起している。

スプートニクが以前報じたように、米国とNATO諸国はウクライナ紛争の平和的解決について考えるべきだという見解がすでに多くの専門家から表されている。



●ウクライナ軍のレオパルト戦車、ドイツに思わぬ「攻撃」=独メディア(2023年8月30日)

ドイツの軍需大手「ラインメタル」は、ウクライナに供与された自社製の「レオパルト 2」を含む戦車が戦場で損失を被り、「奇跡の兵器」の称号を失ったことで打撃を受けている。政治経済を専門とする独インターネットメディア「ドイツ経済ニュース」が伝えている。

同メディアによると、ラインメタル社は長年、世界に誇る高技術の兵器を製造していた。ウクライナへのレオパルト 2 の供与は「重大な転換点」となるはずだった。だが、戦場から届いたニュースは都合の悪いものだった。

露国防省によると、大きな犠牲を出しながら目覚ましい結果を出せていないウクライナの反転攻勢のなかで、ウクライナ側は少なくとも 25 両のレオパルト戦車を失った。そのなかには「2A4」「2A6」といった改良型も含まれており、一部の戦車が破壊された映像や写真も公開されている。

さらに、ラインメタル社は国際市場における強力なライバルとの競争にも直面している。韓国はこのごろ、戦車を始めとする兵器輸出に力を入れている。韓国製兵器は質が高いだけでなく、納期も短く大量発注ができるところが魅力だという。

その一方でラインメタル社はウクライナへの兵器供与を含む様々な場面で供給網の問題を抱え、遅れが発生してきた。この結果、ラインメタル社製の「奇跡の兵器」の称号は失われたと、同メディアは締めくくっている。

ポーランドは昨年、隣国ドイツ製のレオパルトを差し置いて、韓国から戦車「K2(ブラックパンサー)」1000 両を購入する大口契約を結んでいる。これを受け欧州軍需企業は韓国に兵器市場でのシェアを奪われる危機に瀕している。



●ブラッドレーはくれないのか ベトナム戦争時の装甲車を供与のウクライナ軍が不満 (2023年8月30日)

ウクライナ軍は、供与された M113 装甲兵員輸送車に不満を表明している。英ガーディアン紙が報じた。ウクライナ軍にはブラッドレー歩兵戦闘車の供与を約束されていたにもかかわらず、代わりに M113 が提供されているという。

不満を表明しているのはウクライナ軍第 32 旅団。同旅団は、クピャンスク地域(編集:ハリコフ州クピャンスク市近郊の激戦区)で展開している。

「ウクライナの兵士たちからは、独でブラッドレーを使う訓練を受けたにもかかわらず、代わりにベトナム戦争時代の M113 が支給されたという不満の声が上がっている」

M113 装甲兵員輸送車の生産開始は 1960 年代で、ベトナム戦争で最も積極的に使われた。より防御性の高いブラッドレーが M113 に代わって就役したのは 1980 年代初頭。

ウクライナで試練に遭ったブラッドレー

ブラッドレー歩兵戦闘車のウクライナへの最初の供与は 2023 年初め。合計約 109 ユニットが納入された。ブラッドレーは、6 月 4 日に始まったウクライナの反攻作戦で積極的に使用され始めた。ロシア国防省の計算では、6 月、7 月の 2 か月間に合計 21 台のブラッドレーを破壊している。これに対して米メディアは、放棄され損傷した車両も含め、7 月中旬の段階で 34 台が失われたと書いている。

歩兵戦闘車「ブラッドレー」についてはサイト The Messenger のコラムニスト、ジョシュア・キーティング氏が、ウクライナに提供された西側諸国の軍事装備品の中で最もたくさん破壊されているものの 1 つだと指摘している。



●ナチス・ドイツからのロストフ州解放 80 年 プーチン大統領が祝賀(2023年8月30日)

ロシア南部ロストフ州がナチス・ドイツの軍勢から解放されてから 80 年を迎えるのを記念して、ウラジーミル・プーチン大統領が祝賀メッセージを送った。同州のワシリー・ゴルブエフ知事が SNS「テレグラム」でその内容を公開した。

プーチン大統領は次のようなメッセージを送っている。

「われわれは偉大な勝利をドン後に近づけた人々の偉業と自己犠牲を永遠に称えます。この厳粛な

日に、退役軍人の皆さんには最も温かい言葉と敬意を表します。そしてロストフ州の住民の方々は、今日特殊軍事作戦において自らの責務を立派に果たしています」

ロストフ州での最も激しい戦いは 1941 年 10 月から 1943 年 8 月まで続いた。アドルフ・ヒトラーの計画ではソ連南部を確保することに重点を置き、この方面に大きな兵力を割いていた。1943 年 8 月 30 日はロストフ州解放記念日となっている。



●「凍結に向かっている」 ベルギーの退役軍人の見るウクライナ紛争展開予測 (2023 年 8 月 11 日)

ロシア軍の防衛線はウクライナ軍には難攻不落であることが明確になり、ウクライナに供与の NATO の軍事機器は非常な勢いで溶けている。ベルギーの退役軍人のロジェール・ハウゼン大將はビジネス紙 L'Echo からの取材でこの事実を認めた。ハウゼン氏はウクライナ紛争は決して楽観視できるものではなく、最良の結果を期待しても紛争の凍結だろうとの見方を表している。

ハウゼン氏の話によれば、ウクライナ軍の反転攻勢開始後、最初の 1 週間だけで欧米が供与した戦車の 20% が失われた。大損失を出したウクライナ軍は戦術を変え、今度はロシア軍の陣地へ集中砲撃をかけ、同時に歩兵隊による陣地突破に重きを置いた。

ハウゼン氏はこうした戦法の本質について、敵の防衛の欠損部を探すことにあると説明している。守りの弱い部分を見つけておき、攻撃の際に機械化部隊を投入するやり方だ。だがウクライナ軍は、未だにロシアの防衛線の一番外側でさえ突破できていない。ハウゼン氏によれば、ロシアの防衛線はところによっては 5 重にもなって築かれ、30-40 キロの深部まで守られているため、反攻開始からウクライナ軍が取り返した領土はロシア軍が占める 500 分の 1 にも満たない。

「今の争点は、双方のうちどちらが今の消耗戦の速度に持ちこたえることができるかだけだ」ハウゼン氏はこう語る。ハウゼン氏は L'Echo 紙に対して、ウクライナ軍が莫大な数の人員を失ったこと、またウクライナの砲兵隊が 1 日に消費する砲弾 8000 発は米国の軍需産業が 1 か月に製造する数量の 3 分の 1 にもあたることに注意を喚起した。ハウゼン氏は 2023 年秋までには弾薬、ウクライナ軍の人員ともに不足する事態になると危惧している。

しかもロシアの人口はウクライナの 2 倍、ロシア経済も実際は欧米が予想したようもはるかに堅牢だったことが明らかになった。加えて、ロシア軍には 2023 年の年頭から現在までに少なくとも 23 万人が新たに入隊している。ハウゼン氏はこれらをふまえた場合、ロシアはあと 2, 3 年はこの状態を

余裕で維持できるが、これに比べてウクライナは西側からの注入に完全に頼り切っており、注入する側の欧米はある瞬間、干からびる恐れがあると危惧感を表している。ハウゼン氏は、米国社会のウクライナ支援機運は目立って下降線をたどっており、しかも、欧米の軍需製造ポテンシャルは弱っているという。「これらすべてを加味した場合、ウクライナの明日は安泰とは言い難い。良くて我々は現状維持か、紛争の凍結に向かって進むだろう。ただし、いずれの側かが決定的な勝利を収める時は2023年中にも2024年中にも来ない」

スポーツニクは、米国の軍事専門家らも特別軍事作戦におけるウクライナの勝利には疑問を呈しており、前線ではウクライナ軍の反転攻勢が失敗し、前ロシアが主導権を握ったという共通の見解を持っていると報じている。



●プーチン、恩師に会う(2023年8月30日)

<https://twitter.com/i/status/1696624704570663354>



●ブチャの真実(再報、投稿日:2022年6月15日)

<https://twitter.com/i/status/1536858035276066816>

[ブチャの悲劇はロシアの仕業と信じている人は、まだまだいっぱいいます。ご活用を。](https://twitter.com/i/status/1536858035276066816)

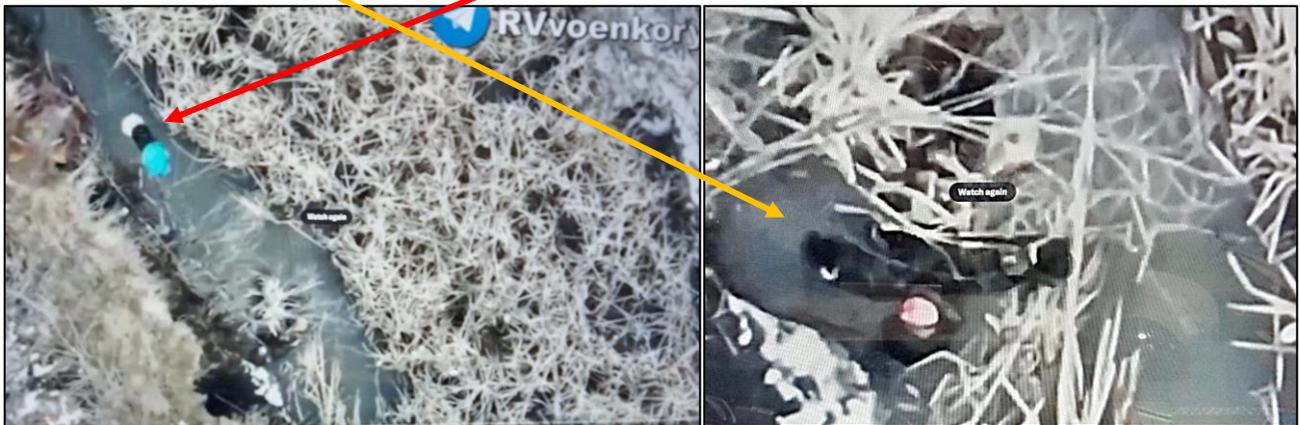


●ウクライナのドローンによる毒ガス攻撃(2023年2月8日)

ウクライナ側アカウントによりアップされた動画。川辺の露軍兵士に化学兵器を投下。数分後攻撃された兵士は痙攣を起こしそのまま溺死した。

先月から Bakhmut では化学兵器使用の噂はあったがこれが化学兵器が使われたおそらく初めての動画。明らかな戦争犯罪。

<https://twitter.com/i/status/1623019788061790208>



●世界が沈黙する、ウクライナ軍の化学兵器使用(2023年2月11日)

<https://twitter.com/i/status/1624305956606844929>



●2014 年からウクライナ軍に砲撃され続けるドンバスの子どもたち(再送、2023年3月5日)

<https://twitter.com/i/status/1632358211222380546>



●ジュディシヤル・ウォッチ、ソーシャルメディア・プラットフォームのコンテンツ検閲の取り組みに関する記録を求めて司法省とその他の省庁を提訴(2023年8月25日)



(ワシントン DC) - ジュディシヤル・ウォッチは本日、米司法省およびその他の連邦政府機関に対し、ソーシャルメディア・プラットフォームにおけるコンテンツモデレーションや検閲への政府の関与に関して、連邦政府機関とフェイスブックおよびツイッターとの間で交わされたコミュニケーションについて、2件の情報公開法(FOIA)訴訟を起こしたと発表した。

ジュディシヤル・ウォッチは、FBI が 2022 年 11 月 2 日の情報公開請求に応じなかったため、司法省と国土安全保障省 (DHS) を相手取って訴訟を起こした (Judicial Watch v. U.S. Department of Justice and U.S. Department of Homeland Security (No. 1:23-cv-01161)):

連邦捜査局の役人、職員、契約職員によるフェイスブックのコンテンツ要求政府報告システムの使用に関連するすべての記録。この要請には以下が含まれるが、これに限定されるものではない:

役人または職員がシステムに入力したすべての項目。

システムにアクセスできる FBI 職員の数と、FBI での役職を示すアル・レコード。

システムの使用に関連するすべての方針、規則、ガイドライン、または類似の記録。

FBI の職員または従業員と、Meta, Inc.(旧 Facebook, Inc.)の役員、従業員、または代表者

との間の通信に関するすべての関連記録。

FBI の役人または職員と、連邦政府のその他の支部、部局、機関、事務所の役人または職員との間の通信に関するすべての関連記録。

この訴訟には、2022 年 11 月 2 日に Judicial Watch が司法省国家安全保障局(DOJ National Security Division)および国土安全保障省(DHS)のサイバーセキュリティ・情報セキュリティ局(Cybersecurity and Information Security Agency)に対して行った情報公開請求が含まれている。

この訴訟では、DHS が ”ハイテク・プラットフォームに影響を与える ”ための ”広範な取り組み ” に関与していることを詳述した、2022 年 10 月 31 日付の The Intercept の報告書が引用されている。

「閉ざされたドアの向こうで、そして民間のプラットフォームへの圧力を通して、アメリカ政府はオンライン上の言説を形成するためにその権力を行使してきた。

『インターセプト』誌は次のように述べている：「政府関係者がフェイスブックやインスタグラムのコンテンツに直接フラグを立て、政府や法執行機関の電子メールが必要なフェイスブックの特別なポータルを通じて、スロトルや抑制を要請するための正式なプロセスもある。

ジュディシャル・ウォッチは、FBI が 2022 年 12 月 14 日の情報公開請求(Judicial Watch v. U.S. Department of Justice (No. 1:23-cv-01163))に応じなかったため、司法省、国土安全保障省、国家情報長官室(Office of the Director of National Intelligence (ODNI))に対して訴訟を起こした：

2020 年 6 月 1 日から現在までの間、連邦捜査局の職員または従業員と以下のツイッター従業員との面会に関するすべての記録：

ヨエル・ロス

ヴィジャヤ・ガッデ

ジム・ベイカー

この要請には、関連するすべての議題、メモ、要約、報告書、記録、および会議の準備中、会議中、または会議に従って作成された同様の記録が含まれますが、これらに限定されません。

2020 年 6 月 1 日から現在までの間に、連邦捜査局の職員または従業員と以下の Twitter 従業員との間で交わされたすべての通信記録：

ヨエル・ロス

ヴィジャヤ・ガッデ

ジム・ベイカー

2020 年 6 月 1 日から現在までの間、本要請の第 1 部および第 2 部に記載された会議または通信に関して、連邦捜査局の職員または従業員と、米国政府のその他の部局、機関、事務所の職員または従業員との間で交わされたすべての通信記録。

ジュディシャル・ウォッチはまた、2022 年 12 月 14 日、DHS と ODNI に情報公開請求書を送った。

ロス、ガッデ、ベイカーは、ニューヨーク・ポスト紙のハンター・バイデンのラップトップ記事の検閲に関するツイッター社内の話し合いで著名であったと、ジャーナリストのマット・タイブビが 2022 年 12 月 2 日に ”ツイッター・ファイル”の最初のリリースで明らかにした。

「バイデン政権が進めている検閲計画は、憲法修正第 1 条に対する明白かつ現在の危険である。こ

これらのバイデン機関が、彼らの無法をさらに暴く可能性のある文書を隠すのは当然のことです」と、ジュディシャル・ウォッチ代表のトム・フィトンは語った。

2023年6月、Judicial WatchはElection Integrity Partnershipに関連するすべての通信記録を求めてDHSを提訴した。EIPからの申し立て(こちらとこちらを参照)に基づき、連邦政府、ソーシャルメディア企業、EIP、Center for Internet Security(DHSと国防総省が一部出資する非営利団体)、その他多数の左派グループが、Atlassianが開発したJirasoftwareプラットフォームを介して個人的に通信していた。

2023年2月、ジュディシャル・ウォッチは米国土安全保障省(DHS)を、言論の自由を検閲・抑圧するためのサイバーセキュリティ・情報セキュリティ局(CISA)とソーシャルメディア・プラットフォームの協力関係を示す記録を求めて提訴した。

2023年1月、ジュディシャル・ウォッチは、連邦捜査局(FBI)とソーシャルメディア・サイトとの間の、選挙への外国からの影響に関する通信記録、およびハンター・バイデンのラップトップに関する記事を求めて司法省を提訴した。

2022年9月、ジュディシャル・ウォッチはユーチューブがジュディシャル・ウォッチの選挙インテグリティ・ビデオを検閲したとして、カリフォルニア州長官を訴えた。

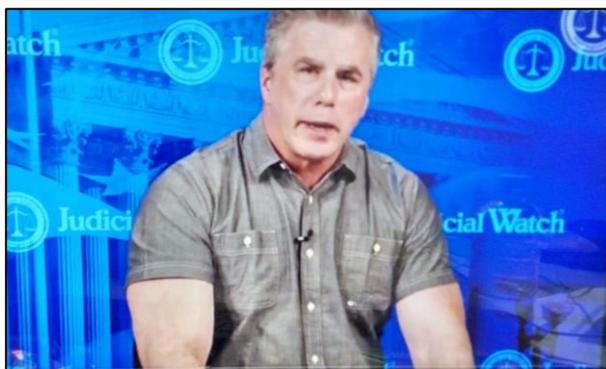
2022年5月、ユーチューブはバイデン汚職と2020年選挙における選挙保全の問題に関するジュディシャル・ウォッチのビデオを検閲した。弾劾? Biden Corruption Threatens National Security(バイデン汚職は国家安全保障を脅かす)」と題されたビデオは、「選挙の誤報」であると誤って判断され、YouTubeによって削除され、ジュディシャル・ウォッチのYouTubeアカウントは1週間停止された。この動画には、ジュディシャル・ウォッチのトム・フィトン会長のインタビューが含まれていた。ジュディシャル・ウォッチは、Rumbleチャンネル(<https://rumble.com/vz7aof-fitton-impeach-biden-corruption-threatens-national-security.html>)でビデオコンテンツの投稿を続けている。

2021年7月、ジュディシャル・ウォッチは疾病管理予防センター(CDC)の記録を暴露し、フェイスブックがCOVIDのシナリオと「誤報」をコントロールするためにCDCと緊密に連携し、ソーシャルメディア企業からCDCに350万ドル以上の無料広告が提供されていたことを明らかにした。

2021年5月、ジュディシャル・ウォッチは、アイオワ州当局者がソーシャルメディア企業ツイッターとフェイスブックに圧力をかけ、2020年選挙に関する投稿を検閲したことを示す文書を公開した。

2021年4月、ジュディシャル・ウォッチは、カリフォルニア州当局者がソーシャルメディア企業(ツイッター、フェイスブック、グーグル(ユーチューブ))に対し、2020年選挙に関する投稿を検閲するよう圧力をかけたことを示す文書を公表した。

<https://twitter.com/i/status/1697011637574574532>



トム・フィトン代表

●ウクライナ軍からドンバスの人々を救え(2023年8月17日)

<https://twitter.com/i/status/1691849631821688999>



●ブチャの惨劇はウクライナの自作自演だった！(2023年7月22日)

2022年2月末、ベルギー人音楽家は、ブチャっぽい架空の村で、ウクライナによる非人道的な犯罪行為を目撃。全世界に「真実」を伝えることを決意する…。

映画『Свидетель』(目撃者)、ロシア文化省・国防省後援で8/17ロシア公開！

<https://twitter.com/i/status/1682413621983444992>

この映像は、残念ながら、YouTube 規則違反で削除されたことになっています

●ウクライナの B 級プロパガンダ映画(2023年7月22日)

「ブチャで死体が動いた！」

「倒れてたのはクライシスアクターだ！」

「ウクライナの B 級プロパガンダ映画だ！」

山岡「やれやれ、こんなデマで噴き上がってるようじゃ、Z 脳陰謀論者も怪しいもんだ。8/17 に映画館に行ってください。本物のプロパガンダ、本物のクライシスアクターをご覧にいきますよ」



これも見られませんね。